

平成21年3月(2009年) No.519

フルハイビジョンが初登場 従来のハイビジョンとの比較テスト 大きな差は無さそう 安居氏が披露

今やビデオカメラといえば、従来からのテープ方式のカメラに替って、AVCHDカメラのオンパレードです。私たちのような趣味で作品づくりをしている者にとっては、編集がままならないのが現実。何事にも新しいことに挑戦されている安居氏が、このAVCHDカメラで撮影したものを従来のハイビジョンとの映像と並べて、その画質の比較テスト作品を披露されました。その結果は苦勞して作ったものの割にはその差は判らない程度ということで、何やらホットした?のが本音。フルハイビジョンに皆が変更したら例会や発表会まで大変なことになるぞと思ったのですが、まだ当分はテープ式で安泰なようです。(安居氏投稿を2月例会レポートの後に掲載)

■森保信さんを偲ぶ会、盛会裡に無事終了

去る2月22日(日曜日)に行われた森さんの作品上映会は、難波市民学習センター第2研修室にて満員の参加者があり盛況でした。まず遺影の映像の前で黙禱を行いました。思い出話などを交えて作品鑑賞しました。

■奥宏氏が受付担当世話役を辞任、替りに紙本氏が受付担当世話役就任に

このほど健康上の理由で、受付の役目を降りたいとの奥氏の希望がありましたので受入れしました。替りに紙本氏にやって頂く事になりました。

2月例会のレポート

2月例会は第4土曜28日18時より、いつもの例会場で開催しました。2月にしては暖かい日で出席者も29名を数えました。司会は有村氏、書記、岡本氏、映写係、江村、増池、河合の3氏、受付は宮崎、渡辺の両氏。

3月例会のお知らせ

3月例会は第4土曜日28日18時より、大阪市立難波学習センター(JRなんばOCATビル4階)にて開催。寒さも和らいだ初春の季節、どうぞお越しく下さい。撮影会情報もあると思います。月1回の例会です。楽しいひとときを過ごしましょう。

◆出席者：有村、石垣、井上、江村、江藤、岡本、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、玉井、対馬、錦、西井、華岡、藤原、前田、増池、宮井、宮崎、森口、安居、山本、吉岡、渡辺、見学者の蟹江（敬称略）の29氏と作品本数17本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：岡本世話役）

1. フルハイビジョンにて（AVCHD）

安居 利次さん 7分50秒

今月の例会で最も注目を集めたのがこの作品。例会の中休み後のトップに上映されたものですが、あえて最初に記事にさせていただきます。

最近フルハイビジョンをうたったAVCHDカメラが店頭に並び始めた。その新製品を購入されてメモリスティックに編集した作品を入れてカメラごとの持参である。

フルハイビジョンをアマチュアの例会で上映するのは全国で初めてかも知れないと司会者が紹介した。私もこの記事を書くにあたり認識不足の為、改めて作者である安居さんに詳しくお話しをお伺いした上でそのお話しを元に書かせていただきますが、作者ご自信が別欄で詳しく解説をされておりますのでそちらをお読みいただければご理解いただけると存じます。

フルハイビジョンは1920×1080なのでテープ（1440×1080）ではだめだという。だが作品の中で作者が言うておられるように苦勞して上映しても映像のきれいさはテープの時とほとんどかわらない。落胆の色は濃い。また編集してもどのメディアに出すかがやっかいのようだ。しかしテープ式カメラが市場から消え去る運命になり、メディアがカードに移行するご時勢、将来を見据えた実験的試みの価値は高いと思うがどうだろうか。作者の挑戦に拍手を送りたい。

2. 湖北から伝える富田人形

玉井 均さん 3分00秒

滋賀県長浜市富田町（旧びわ町北富田）に伝えられている人形浄瑠璃を取材されました。この作品は、「びわ湖eーまち映像協議会」が主催する、第2回デジタル映像コンテスト（今、あなたが伝えたいもの、のこしたいもの）に応募されて優秀賞を受けられたものです。集落に伝えられた富田

人形浄瑠璃は親から子へと5世代にわたって受け継がた、滋賀県選択無形文化財で、その練習風景などを15回も足を運ばれて16本のテープにおさめられたとか、ところが応募の制限時間が3分ということで、どう纏めてよいか悩んだと作者。ご苦勞が伺えます。素材がたくさんありますので、10分位の作品にされたら大作になると思います。期待しています。

3. 第4次川中島合戦（W）

紙本 勝さん 13分50秒

川中島の戦いは、日本の戦国時代に武田信玄と上杉謙信との間で、北信濃の支配権を巡って行われた数次の戦いをいう。最大の激戦となった第4次の戦いが川中島を中心に行われたことから、その他の場所で行われた戦いを総称して川中島の戦いとして呼ばれています。歴史に残る激戦を長野市川中島古戦場で再現されたものを取材されました。ナレーションで詳しく解説されていますが、この大掛かりなイベントをよく撮られました。ただ、出演者が鎧を着けた若い女性も交じっており笑いながら戦っているのが微笑ましく思いました。でもNHKの「大河ドラマ」か「その時歴史が動く」を見ているようでした。

4. 尾白川名水紀行（W）

森口 吉正さん 8分20秒

作者の名水シリーズで、今回は山梨県北巨摩郡白州町にある尾白川（おじろがわ）を訪ねられました。甲斐駒ヶ岳を源流とする川で、日本名水百選に選ばれた清流です。近くにサントリー白州蒸留所があり、「南アルプスの天然水」のCMでもよく知られています。新緑の季節と名水はよくマッチします。その尾白川は、石英の真っ白い粒が堆積してその中を濾過された神秘的なエメラルド色の水と荘厳な溪谷美を堪能させていただきました。

5. とあるショウにて（W）

増池 茂さん 5分40秒

大阪梅田のあるモード学園のファッションショーらしきものを撮影されました。司会者がどうして撮影できたのかとの質問に、ご家族の方が出演されているとのことでした。光と影を演出されたものですが、この手の撮影は難しいですね。最後の俯瞰撮影は最初にもって来た方がよかったと思

います。むしろなかっても良かったかも知れませんね。

6. 白神山地 (W)

対馬 昭さん 6分30秒

紅葉シーズンにいかれた作品です。ハイビジョンカメラで撮影されてDVにおとされたとか。きれいな紅葉ですが、やはりこの手の作品はハイビジョンで見たいですね。しかし、しっとりとしたおちついた作品に仕上がっています。

紅葉した葉っぱや水に浮かぶモミジの葉などアップの画面がもう少しあれば迫力のあるものになったと思います。

7. 冬の花園 (HDV)

有村 博さん 9分15秒

広辞苑で花園と引けば、「美しい花がたくさんある庭園。花畑。」とありますが、このタイトルを見て冬のお花畑を思い浮かべられた方もおられたと思います。

「わが町」というテーマの全国コンクール用につくりましたと作者。実は、東大阪では花園といえば、高校ラグビーで有名な花園という地名なのです。その東大阪花園の周辺には野球場、ドリーム21(児童文化センター)、美術館、中央公園があり紹介されていきます。そしてメインはごひいきにされている近鉄ライナーズのラグビーの試合を撮影されていました。春ともなれば中央公園には色とりどりの花が咲き誇ります。いわゆるラグビーの「は・な・ぞ・の」を掛け合わせた意味合いもあるんだと思いました。

8. 何とも奇妙な祭り・ケベス (HDV)

河合 源七郎 8分46秒

大分県国東市国見町に鎮座する岩倉八幡神社(櫛来社)で毎年行われる炎の祭典をケベス祭りと言うらしい。白装束をまとった氏子たちは日が暮れるのを待ち、全裸で海に入り「潮かき」とよばれる禊を行なった後、神社の境内に積み上げられたシダの柴木の山に点火し、燃え盛る浄火を守る白装束の「トウバ」たちとそこに突入しようとする奇妙な面をつけた「ケベス」が戦う。ケベスが棒でシダの山をかき回し火の粉を散らすと、トウバも火のついたシダを持って境内を走り回り参拝者を追い回す。この祭りの起源や由来は一切不明で火の粉が舞う荒々しい奇祭として知られ、国の選択無

形民族文化財に指定されています。めずらしいお祭りを見せていただきました。

9. YOSAKOI あーとうえいぶ (HDV)

江村 一郎さん 6分00秒

作者得意のよさこいシリーズ春編です。

「あーとうえいぶ」とはダンスのチーム名だそうです。今回はこのひとつのチームに絞って纏められました。夏のよさこいと違って春の妖艶よさこいをみせていただきました。

10. 余部・冬の海 (HDV)

前田 茂夫 8分58秒

この作品も作者の余部シリーズ、昨年1月に撮影されたもの。余部鉄橋の掛け替え工事は風雪の中でも進められています。怒涛うずまく日本海の波の轟音、雨交じりの吹雪の中をはしる列車、強風になれば止まることも、迫力のある映像をみせていただきましたが、撮影の方も大変だったと思いました。ご苦労様でした。

11. 天空の城クラック・デ・シュベリエ (HDV) 井上 勝彦さん 9分32秒

世界遺産に登録された丘の上に建てられた天空の城、クラックデシュベリエを訪ねられた作品です。この美しい城は、十字軍の騎士団がシリアの地に築いた大城塞で、巨大な石垣と深い堀に囲まれ難攻不落の様相が、ナレーションから詳しく拝見させていただきました。

12. 初不動 (HDV)

渡辺 雄史さん 7分30秒

1月の終わりに東住吉区の法楽寺で行われた護魔法要を撮られました。燃え盛る柴木に願い事を書いた護魔木をいれて、無病息災を祈る人々の様子がよくでていました。

13. ペトラ遺跡 (HDV)

華岡 汪さん 8分30秒

この作品も前作のシリアの南側の中東ヨルダンの砂漠の真ん中に「幻の都」がある。映画「インディージョーンズ、最後の聖域」のロケ地として有名になった世界遺産ペトラ遺跡を訪ねられました。巨岩や奇岩、モニュメントなどが往時の面影を物語っています。楽しく拝見しました。

14. 少数民族の市場 (HDV)

山本 正夢さん 7分20秒

東南アジアの内陸部に位置するラオスを

たずねられました。ラオスは多民族国家で少数民族の住み分けが伺えます。その市場の様子を撮影されました。未開発国の様子を拝見いたしました。

15. 早春の泉州路を駆け抜けて (HDV)

宮井 健さん 5分00秒

泉州国際市民マラソンです。6000余名が走られたようですが、勝ち負けより楽しんで走ってる様子が伺えます。沿道では太鼓など楽器で応援している人など。追っかけての撮影大変だったと思いました。

16. 小江戸彦根まつり (HDV)

宮崎 紀代子 8分46秒

このところ「ひこにゃん」で名を馳せている彦根城の城まつりです。時代装束に身を包んだパレードを取材されました。

パレードはなかなかまとめにくいものですが、自作の俳句をいれてうまくまとまっています。俳句うまいですね。

17. 夢広がるジオラマづくり (HDV)

藤原 純三さん 4分00秒

テレビの番組でジオラマづくりを見たのがきっかけで始めたとか。まずは教室に参加。幼少のころに使ったのを押し入れから出して早速製作を開始。その模様を作品にされました。ビデオ作家につぐ鉄道模型マニアの作者、夢は広がりますね。

フルハイビジョンについて

安居利次

最近テープ式のビデオカメラが発売されない。新製品は1920×1080のフルハイビジョンをうたったAVCHDカメラばかりである。フルハイビジョンってどれだけ綺麗か、宣伝にのって新製品を購入した。テープに制限されていた1440×1080の画素数を越えた映像がハードディスクに保存されている。わくわくしながら45インチのフルスペックのTVにHDMI端子をつないで見る。今撮ってきた住吉大社の「反り橋」がTVに写っている。これが1920×1080フルハイビジョン16Mbps※の映像である。その時は「なるほど綺麗」と感心した。

撮ってきた映像を見るだけならこれで満足だが、われわれは編集して作品にしなければならぬ。ハイビジョンだけでも編集に苦労したがそれがテープレースになるとも

っともって大変なのである。

カメラには「i.LINK」端子がなくなっている。AVCHDの圧縮画像をHDMI端子でPCに取り込むために専用のボードがある。タイムラインに画像が並べば、フルハイビジョンでも今まで通りの編集方法でよいのだがこれをどのメディアに出すかが次の問題である。ブルーレイかカードである。クラブの例会(HDMI端子付のプロジェクターがある)に持って行くには、カードに書き戻してカメラごとって行くのが便利である。ただ書き戻すために別のソフトがある。AVCHDのファイル(m2ts)のレンダリングにはCPUも強力な方がいい。ということでPCの周辺もかなり整備しないとイケない。

カードも再生機であるカメラが認識してくれないと意味がない。そのためにNero9というソフトがある。半分ボケかかっている老人である私一人ではとても無理だが息子が助っ人となって協力してくれたので、例会に持って行くことが出来た。

フルハイビジョンは綺麗といっても実際上映してみると、もうひとつ納得がいかない。DVからハイビジョンになった時は実感として綺麗と思った。理屈からいっても720×480から1440×1080、画素数で4倍強の違いがあったから印象としても当然である。ハイとフルでは1440と1920で3割しか画素数があがっていない。45インチのTVの傍で見ても画質の向上はほとんどわからない。編集で同じ画面を2枚並べてナレーションでこちらがフルでということ「そんな気がする」という程度である。

クラブでハイビジョンの上映は初めてということで「何か書いてください」と会長から言われたが、私自身よく理解していない状態だからこれ以上書けない。

最後に蛇足だが、理論的に3割しか綺麗になっていないものために多額の投資とそれを習得するための労力は果たしてアマチュアビデオ人間にとって良かったか疑問が残る。しかし新しい物への好奇心と挑戦は年をとっても失いたくないというのが本音であるからしょうがないか。

※bps(1秒間のデータ数)。